

# 滿洲開拓關係雜誌集成

全11卷・別冊1

表示価格は、全て税別

○体 裁＝A5判(第1～7卷)・B5判(第8～11卷)／上製／総約5、800頁

別冊解題（風間秀人）・総目次

\*別冊のみ分売可。本体1,500円+税

推 薦 ハ 蘭 信 三・白木沢旭児・

●原本提供：京都大学附属図書館、公益財団法人日

配本
卷数
雜誌名
発行者

第3回配本		第2回配本		第1回配本	
別冊	解題・総目次	第4巻	『開拓月報』	満洲帝国政府	第一巻第一号～第二巻第二号 一九三七年一二月～一九三八年九月
第11巻	『開拓協和』	第5巻	『開拓月報』	満洲帝国政府 産業部開拓总局	第一巻第一号～第二巻第四号 一九四〇年一月～四月
第10巻	『開拓協和』	第6巻	『開拓協和』	満洲帝国政府 産業部開拓总局	第二巻第五号～第三巻第三号 一九四〇年五月～一九四一年三月
『開拓協和』	『開拓協和』	第7巻	『開拓協和』	中央本部 満洲帝国協和会	創刊号～第二巻第三号 一九四〇年一〇月～一九四一年三月
満洲拓殖公社内 開拓協和編輯室	満洲拓殖公社内 開拓協和編輯室	満洲拓殖公社内 開拓協和編輯室	満洲拓殖公社内 開拓協和編輯室	第一巻第三号～第二巻第三号 一九四一年一月～一九四二年三月	一九四〇年五月～一九四一年三月
満洲拓殖公社内 開拓協和編輯室	満洲拓殖公社内 開拓協和編輯室	満洲拓殖公社内 開拓協和編輯室	満洲拓殖公社内 開拓協和編輯室	第一卷第四号～第二卷第八号 一九四二年四月～八月	一九四二年九月～一九四三年二月
満洲拓殖公社内 開拓協和編輯室	満洲拓殖公社内 開拓協和編輯室	満洲拓殖公社内 開拓協和編輯室	満洲拓殖公社内 開拓協和編輯室	第二卷第九号～第三卷第二号 一九四三年三月～九月	一九四三年一〇月～一九四四年三月
第三卷第一〇号～第四卷第三号		2016年2月刊行 本体94,000円+税 ISBN978-4-83350-777-3		2015年4月刊行 本体72,000円+税 ISBN978-4-83350-777-8-9	

不二出版

振替 X T E L  
○○三一三八一一四四三三  
○○三一三八一一四四六四  
○○一六〇一一九四〇八四  
東京都文京区向丘 一一一二二二

2015/4

# 滿洲開拓關係雜誌集成

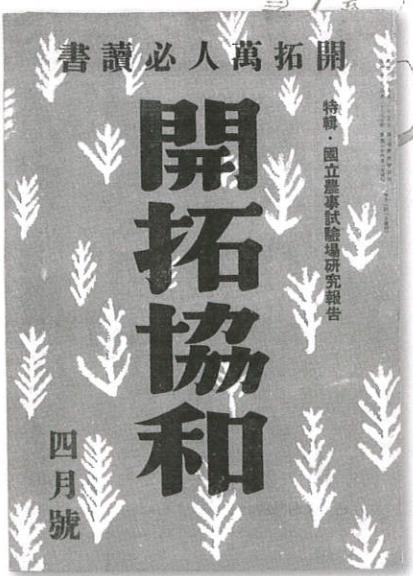
全11巻・別冊1(解題・総目次)

推薦——蘭德三、白木源加昇、白取道博

2015年4月刊行開始（全3回配本）

卷之三

不二出版



「満洲国」で移民政策を推進した満洲拓殖公社、  
満洲国政府開拓総局、満洲国協和会が刊行に関わった

【開拓月報】『開拓協和』を復刻。

二三九

満洲移民史研究のための第一級資料である。

現場の生の声から研究のさらなる展開を

蘭信三（上智大学総合グローバル学部教授）

「満洲」は文明、自然環境、国際政治から多様な文脈にあつた。だが日本での研究はその歴史的経緯から、「満洲国」、満鉄、そして満洲移民が多く蓄積されてきた。在満日本人の僅か一五%でしかなかつた満洲移民の研究が多いのは意外かもしれない。それは浅田喬一らの先

推薦文

## 「満洲開拓」に関する現地側日本語資料

白木沢旭昇（北海道大學教授）

〔満洲〕は文明、自然環境、国際政治から多様な文脈において、が日本での研究はその歴史的経緯から、「満洲国」、満鉄、そして満洲移民に多く蓄積されてきた。在満日本人の僅か一五%でしかなかつた満洲移民の研究が多いのは意外かもしれない。それは浅田喬一らの先達によるところ大であるが、満洲移民事業が日本帝国主義の特質を強く反映していることがある。また、帝国崩壊後に帝国支配のツケが満洲移民にしわ寄せされ、約八万人の死者と一万余人の中国残留日本人を生じせしめたという事件性も関連していた。

初期の満洲移民研究はその事業と日本帝国主義との関連が浮き彫りにされた。ついで研究はより具体化され、開拓団・開拓農業の在り方に焦点が当たる。ついで研究はより具体化され、開拓団・開拓農業の在り方に焦点が当たる。北海道農法導入の成否、個別開拓団の事例研究、帝国崩壊後の引揚げ、戦後開拓、中国残留日本人研究などへと展開されていった。そして近年では、北米日本人移民の農業経験と「満洲」の大型機械化農業との関連というグローバルな研究へと展開していっている。

このような研究の促進に重要な役割を果たしてきたのは、不二出版がかつて復刻した『満州移民関係資料集成』や『満蒙開拓青少年義勇軍関係資料』等々であつた。今回の『満洲開拓関係雑誌集成』は満洲開拓の実務に携わった満拓公社と開拓総局の内部資料が多く含まれている。「移住地便り」など満拓公社員の生の声があり、かつ開拓団の生産や販売などの資料から満洲開拓の具体的な在り様が浮き彫りにされる。以前の資料集とともに本雑誌集成によつて、満洲移民研究が屋

中国東北地方に傀儡「満洲国」が建国した後に、日本国内からは広大な土地を求めて農業移民が渡っていった。日本ではこれを「満洲開拓」と称している。「満洲開拓」の実態については誤解している日本人が多い。しばしば北海道開拓のように「未開の原野を開拓した」というイメージで語られることもあるが、本当に開拓をしたのだろうか。従来の満洲移民史研究では、満洲移民は昭和農業恐慌に対する農政側の施策として位置付けられることが多かった。また、ソ連参戦以後、関東軍に見捨てられた「開拓民」の悲劇の体験についても数多くの回想、手記により広く知られていた。しかし、肝腎の「満洲開拓」と称して日本人移民は現地で何を行ったのか、日本人移民が入り込んだ村はどうのようになつたのか、という点については十分に明らかにされてこなかつたといえよう。

今回、復刻された『偕拓』、『開拓月報』、『開拓協和』の三つの雑誌は、当時の満洲国内で発行され、移民や移民団の具体的な様子を含めて「満洲開拓」の実態の一部を明らかにしうる資料群である。所蔵機関が少なく、これまでの研究ではあまり用いられてこなかつたとのことであり、復刻によつて多くの研究者に利用され、また満洲移民に関心をもつ多くの方々に読んでいただくことが可能となつた。「満洲開拓」の真の姿が、これより一層明確となる。

滿洲移民政策の実相を窺い知る窓

白取道博（横浜国立大学教授）

このたび復刻される三誌は満洲国側における移民関係諸機関の動靜を把握する上で重要な逐次刊行物である。

【偕拓】の復刻を知りてなにかは思い浮かへたのは同調に運動された佐藤秀堂「満洲開拓青年義勇隊物語」である。この記事は満蒙開拓青少年義勇軍の創設期の状況について他の公文書では得られなかつた情報を教えてくれた。そこには実務の衝に当たつた人々の熱誠のごときものが垣間見えた。内部機関誌の性格が濃いとはいえ、同じ満洲拓殖公社が刊行した『甲訓月報』などと異なり、編集に携わつた人々の息遣いをも感得させる。

內容見本

出席席		満洲側		農興部		參議會		開拓總局		開拓總局		副實開		
日本側	(主催者側)	議長	次長	理事長	總務處長	拓理	拓練所	拓國	拓榮	江訓	振國	科長	科長	科長
主催所	主催時日場	拓課長	拓課長	拓局參	拓局參	拓國	拓國	拓國	拓榮	江訓	振國	科長	科長	科長
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	久保田	久保田	天農大教	天農大教	大教授	大教授	大教授	大教授	大教授	大教授	科長	科長	科長
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	三毛秉基	科長	科長	科長									
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	科長	科長	科長
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	豐善	科長	科長	科長									
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	夫	科長	科長	科長
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	科長	科長	科長
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	雄	科長	科長	科長
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	彦	彦	彦	彦	彦	彦	彦	彦	彦	彦	科長	科長	科長
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	忠	忠	忠	忠	忠	忠	忠	忠	忠	忠	科長	科長	科長
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	芳	芳	芳	芳	芳	芳	芳	芳	芳	芳	科長	科長	科長
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	太	太	太	太	太	太	太	太	太	太	科長	科長	科長
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	科長	科長	科長
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	科長	科長	科長
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	稻垣征夫	科長	科長	科長									
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	坪上貞二	科長	科長	科長									
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	小平權一	科長	科長	科長									
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	結城清太郎	科長	科長	科長									
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	和田博雄	科長	科長	科長									
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	大藏公望	科長	科長	科長									
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	橋本傳左衛門	科長	科長	科長									
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	神谷慶治	科長	科長	科長									
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	加藤完治	科長	科長	科長									
新嘉坡	滿洲帝國協和會中央本部	望	望	望	望	望	望	望	望	望	望	科長	科長	科長

▲『開拓協和』創刊号「日滿開拓問題座談会 出席者」(1940年10月)  
座談会の内容は、同号62~100頁に収録されている。

目次	第一卷・第一號
創刊の辭	一
卷頭言	二
満洲拓殖公社の使命・特質に就いて	三
調印式に於ける關東軍參謀長及滿洲國外務局當局のスタートメント	四
満洲拓殖公社設立の經過	五
公社と移民團長との懇談會(披草)	六
加藤完治氏講演	七
協和會滿洲分會成立略誌	八
協和會滿洲分會總會報告	九
武道部	十
野球部	十一
陸上競技部	十二
移民團合體統計表(附移住地略圖)	十三
隨想	十四
内地農村より所感を寄す	十五
建設隨想抄	十六
土地買賣を要付ける迄	十七
五道溝外西橋	十八
移民村、發芽	十九
トランクーの歌	二十
移風圖(附記)	二十一
満洲拓殖公社ノ設立ニ關スル協定、附屬書	二十二
満洲拓殖公社定款、新職制、分課規定	二十三
編輯後記	二十四
山元武開・二二	二十五
嵯峨貞武・二二	二十六
加藤信行・二二	二十七
山田武彦・二二	二十八
朝木一・二二	二十九
佐藤清・二二	三十
齋原貞武・二二	三十一
馬籍法	三十二
軍馬繁殖護法	三十三
江寧鐵開發訓練處官制	三十四
康德七年(明治二五)二月一日	三十五
勤令第(二)五十(明治二五)二月一日	三十六
勤令第(二)五十(明治二五)二月四日	三十七
勤令第(二)五十(明治二五)二月六日	三十八
勤令第(二)五十(明治二五)二月二十六日	三十九
勤令第(二)五十(明治二五)二月二十八日	四十
龍溪省觀靈祭規則	四十一
政教審議資料目録	四十二
「乙種訓練所建設工事建築許可證」	四十三
「甲種訓練所建設工事建築許可證」	四十四
訓練所職員一覽表	四十五
康德七年度開拓廳會議事錄	四十六
康德五年度開拓廳生產物販賣狀況	四十七
康德七年度開拓廳會議事錄	四十八
康德七年度開拓廳會議事錄	四十九
満洲拓殖公社(九五)	五十
山崎保之丞・三	五十一
小田島興三・三	五十二
大狗藏の英靈を弔ふ	五十三

▲『偕拓』第1卷第1号「目次」(1937年12月)

開拓月報	四次	第二号	第二号
満洲開拓政策に就て	一	開拓總局長 結城清太郎(一)	一
開拓協和の實驗	二	開拓總局總務處長 五十子(二)(七)	二
満洲開拓政策基本要綱の解説	三	開拓總局總務處長 五十子(三)(一三)	三
満洲建國と開拓政策	四	開拓總局總務處長 五十子(四)(二九)	四
調印式に於ける關東軍參謀長及滿洲國外務局當局のスタートメント	五	開拓總局總務處長 五十子(五)(三七)	五
満洲拓殖公社設立の經過	六	開拓總局總務處長 五十子(六)(三七)	六
満洲拓殖公社設立の經過	七	開拓總局總務處長 五十子(七)(三七)	七
満洲拓殖公社設立の經過	八	開拓總局總務處長 五十子(八)(三七)	八
満洲拓殖公社設立の經過	九	開拓總局總務處長 五十子(九)(三七)	九
満洲拓殖公社設立の經過	十	開拓總局總務處長 五十子(十)(三七)	十
満洲拓殖公社設立の經過	十一	開拓總局總務處長 五十子(十一)(三七)	十一
満洲拓殖公社設立の經過	十二	開拓總局總務處長 五十子(十二)(三七)	十二
満洲拓殖公社設立の經過	十三	開拓總局總務處長 五十子(十三)(三七)	十三
満洲拓殖公社設立の經過	十四	開拓總局總務處長 五十子(十四)(三七)	十四
満洲拓殖公社設立の經過	十五	開拓總局總務處長 五十子(十五)(三七)	十五
満洲拓殖公社設立の經過	十六	開拓總局總務處長 五十子(十六)(三七)	十六
満洲拓殖公社設立の經過	十七	開拓總局總務處長 五十子(十七)(三七)	十七
満洲拓殖公社設立の經過	十八	開拓總局總務處長 五十子(十八)(三七)	十八
満洲拓殖公社設立の經過	十九	開拓總局總務處長 五十子(十九)(三七)	十九
満洲拓殖公社設立の經過	二十	開拓總局總務處長 五十子(二十)(三七)	二十
満洲拓殖公社設立の經過	二十一	開拓總局總務處長 五十子(二十一)(三七)	二十一
満洲拓殖公社設立の經過	二十二	開拓總局總務處長 五十子(二十二)(三七)	二十二
満洲拓殖公社設立の經過	二十三	開拓總局總務處長 五十子(二十三)(三七)	二十三
満洲拓殖公社設立の經過	二十四	開拓總局總務處長 五十子(二十四)(三七)	二十四
満洲拓殖公社設立の經過	二十五	開拓總局總務處長 五十子(二十五)(三七)	二十五
満洲拓殖公社設立の經過	二十六	開拓總局總務處長 五十子(二十六)(三七)	二十六
満洲拓殖公社設立の經過	二十七	開拓總局總務處長 五十子(二十七)(三七)	二十七
満洲拓殖公社設立の經過	二十八	開拓總局總務處長 五十子(二十八)(三七)	二十八
満洲拓殖公社設立の經過	二十九	開拓總局總務處長 五十子(二十九)(三七)	二十九
満洲拓殖公社設立の經過	三十	開拓總局總務處長 五十子(三十)(三七)	三十
満洲拓殖公社設立の經過	三十一	開拓總局總務處長 五十子(三十一)(三七)	三十一
満洲拓殖公社設立の經過	三十二	開拓總局總務處長 五十子(三十二)(三七)	三十二
満洲拓殖公社設立の經過	三十三	開拓總局總務處長 五十子(三十三)(三七)	三十三
満洲拓殖公社設立の經過	三十四	開拓總局總務處長 五十子(三十四)(三七)	三十四
満洲拓殖公社設立の經過	三十五	開拓總局總務處長 五十子(三十五)(三七)	三十五
満洲拓殖公社設立の經過	三十六	開拓總局總務處長 五十子(三十六)(三七)	三十六
満洲拓殖公社設立の經過	三十七	開拓總局總務處長 五十子(三十七)(三七)	三十七
満洲拓殖公社設立の經過	三十八	開拓總局總務處長 五十子(三十八)(三七)	三十八
満洲拓殖公社設立の經過	三十九	開拓總局總務處長 五十子(三十九)(三七)	三十九
満洲拓殖公社設立の經過	四十	開拓總局總務處長 五十子(四十)(三七)	四十
満洲拓殖公社設立の經過	四十一	開拓總局總務處長 五十子(四十一)(三七)	四十一
満洲拓殖公社設立の經過	四十二	開拓總局總務處長 五十子(四十二)(三七)	四十二
満洲拓殖公社設立の經過	四十三	開拓總局總務處長 五十子(四十三)(三七)	四十三
満洲拓殖公社設立の經過	四十四	開拓總局總務處長 五十子(四十四)(三七)	四十四
満洲拓殖公社設立の經過	四十五	開拓總局總務處長 五十子(四十五)(三七)	四十五
満洲拓殖公社設立の經過	四十六	開拓總局總務處長 五十子(四十六)(三七)	四十六
満洲拓殖公社設立の經過	四十七	開拓總局總務處長 五十子(四十七)(三七)	四十七
満洲拓殖公社設立の經過	四十八	開拓總局總務處長 五十子(四十八)(三七)	四十八
満洲拓殖公社設立の經過	四十九	開拓總局總務處長 五十子(四十九)(三七)	四十九
満洲拓殖公社設立の經過	五十	開拓總局總務處長 五十子(五十)(三七)	五十
満洲拓殖公社設立の經過	五十一	開拓總局總務處長 五十子(五十一)(三七)	五十一
満洲拓殖公社設立の經過	五十二	開拓總局總務處長 五十子(五十二)(三七)	五十二
満洲拓殖公社設立の經過	五十三	開拓總局總務處長 五十子(五十三)(三七)	五十三
満洲拓殖公社設立の經過	五十四	開拓總局總務處長 五十子(五十四)(三七)	五十四
満洲拓殖公社設立の經過	五十五	開拓總局總務處長 五十子(五十五)(三七)	五十五
満洲拓殖公社設立の經過	五十六	開拓總局總務處長 五十子(五十六)(三七)	五十六
満洲拓殖公社設立の經過	五十七	開拓總局總務處長 五十子(五十七)(三七)	五十七
満洲拓殖公社設立の經過	五十八	開拓總局總務處長 五十子(五十八)(三七)	五十八
満洲拓殖公社設立の經過	五十九	開拓總局總務處長 五十子(五十九)(三七)	五十九
満洲拓殖公社設立の經過	六十	開拓總局總務處長 五十子(六十)(三七)	六十
満洲拓殖公社設立の經過	六十一	開拓總局總務處長 五十子(六十一)(三七)	六十一
満洲拓殖公社設立の經過	六十二	開拓總局總務處長 五十子(六十二)(三七)	六十二
満洲拓殖公社設立の經過	六十三	開拓總局總務處長 五十子(六十三)(三七)	六十三
満洲拓殖公社設立の經過	六十四	開拓總局總務處長 五十子(六十四)(三七)	六十四
満洲拓殖公社設立の經過	六十五	開拓總局總務處長 五十子(六十五)(三七)	六十五
満洲拓殖公社設立の經過	六十六	開拓總局總務處長 五十子(六十六)(三七)	六十六
満洲拓殖公社設立の經過	六十七	開拓總局總務處長 五十子(六十七)(三七)	六十七
満洲拓殖公社設立の經過	六十八	開拓總局總務處長 五十子(六十八)(三七)	六十八
満洲拓殖公社設立の經過	六十九	開拓總局總務處長 五十子(六十九)(三七)	六十九
満洲拓殖公社設立の經過	七十	開拓總局總務處長 五十子(七十)(三七)	七十
満洲拓殖公社設立の經過	七十一	開拓總局總務處長 五十子(七十一)(三七)	七十一
満洲拓殖公社設立の經過	七十二	開拓總局總務處長 五十子(七十二)(三七)	七十二
満洲拓殖公社設立の經過	七十三	開拓總局總務處長 五十子(七十三)(三七)	七十三
満洲拓殖公社設立の經過	七十四	開拓總局總務處長 五十子(七十四)(三七)	七十四
満洲拓殖公社設立の經過	七十五	開拓總局總務處長 五十子(七十五)(三七)	七十五
満洲拓殖公社設立の經過	七十六	開拓總局總務處長 五十子(七十六)(三七)	七十六
満洲拓殖公社設立の經過	七十七	開拓總局總務處長 五十子(七十七)(三七)	七十七
満洲拓殖公社設立の經過	七十八	開拓總局總務處長 五十子(七十八)(三七)	七十八
満洲拓殖公社設立の經過	七十九	開拓總局總務處長 五十子(七十九)(三七)	七十九
満洲拓殖公社設立の經過	八十	開拓總局總務處長 五十子(八十)(三七)	八十
満洲拓殖公社設立の經過	八十一	開拓總局總務處長 五十子(八十一)(三七)	八十一
満洲拓殖公社設立の經過	八十二	開拓總局總務處長 五十子(八十二)(三七)	八十二
満洲拓殖公社設立の經過	八十三	開拓總局總務處長 五十子(八十三)(三七)	八十三
満洲拓殖公社設立の經過	八十四	開拓總局總務處長 五十子(八十四)(三七)	八十四
満洲拓殖公社設立の經過	八十五	開拓總局總務處長 五十子(八十五)(三七)	八十五
満洲拓殖公社設立の經過	八十六	開拓總局總務處長 五十子(八十六)(三七)	八十六
満洲拓殖公社設立の經過	八十七	開拓總局總務處長 五十子(八十七)(三七)	八十七
満洲拓殖公社設立の經過	八十八	開拓總局總務處長 五十子(八十八)(三七)	八十八
満洲拓殖公社設立の經過	八十九	開拓總局總務處長 五十子(八十九)(三七)	八十九
満洲拓殖公社設立の經過	九十	開拓總局總務處長 五十子(九十)(三七)	九十
満洲拓殖公社設立の經過	九十一	開拓總局總務處長 五十子(九十一)(三七)	九十一
満洲拓殖公社設立の經過	九十二	開拓總局總務處長 五十子(九十二)(三七)	九十二
満洲拓殖公社設立の經過	九十三	開拓總局總務處長 五十子(九十三)(三七)	九十三
満洲拓殖公社設立の經過	九十四	開拓總局總務處長 五十子(九十四)(三七)	九十四
満洲拓殖公社設立の經過	九十五	開拓總局總務處長 五十子(九十五)(三七)	九十五
満洲拓殖公社設立の經過	九十六	開拓總局總務處長 五十子(九十六)(三七)	九十六
満洲拓殖公社設立の經過	九十七	開拓總局總務處長 五十子(九十七)(三七)	九十七
満洲拓殖公社設立の經過	九十八	開拓總局總務處長 五十子(九十八)(三七)	九十八
満洲拓殖公社設立の經過	九十九	開拓總局總務處長 五十子(九十九)(三七)	九十九
満洲拓殖公社設立の經過	一百	開拓總局總務處長 五十子(一百)(三七)	一百

▲『開拓月報』第2卷第2号「目次」(1940年3月)

関連図書	
<b>満蒙開拓青少年義勇軍關係資料</b> 全7巻	DVD版 全2枚・別冊1
「拓け満蒙」が創刊された年の夏、広田内閣によつて満洲移民が七大国第一四項目のなかに織り込まれ、拓務省が「二十ヵ年百万戸送出計画」をたてている。すなわち同誌は、この大量送出の推進という役割を負はれていた。それも、「分村移民方式」という具体策を積極的に提起していった。本復刻版は、「拓け満蒙」そしてその継続誌「新満洲」「開拓」全号を収録し、時局の進展に伴う満洲移民の意義と実態の変化を知ることのできる第一級資料である。	
【第Ⅰ期】全31巻	〔第1巻～第31巻／昭和2年～昭和2年〕
【第Ⅱ期】全46巻	〔第32巻～第77巻／昭和9年～昭和18年〕
【第Ⅲ期】全44巻・別冊1	〔第78巻～第121巻／昭和10年～昭和18年〕
本体 裁 A4判・上製・総19、784頁	別冊 解説 (岡部牧夫)・解題 (小林弘二)・総目次
本体 裁 A5判・上製・総20、000頁	別冊 解説 (田中一学)・解題 (安孫子麟・池田浩士・川村湊・君島和彦)
本体 裁 A5判・上製・総792、000頁	別冊